

奥会津・只見線沿線エリアの活性化デザイン

A2201409 笠井ルリ子 A2201418 坂田れい実 A2201422 澁谷朱里
A2201425 瀬切未知佳 A2201432 東山夏実 A2201435 松田涼花

【研究の背景】

奥会津地域には少子高齢化や過疎化など根本的な問題があったが、追い討ちをかけるように JR 只見線は 2011 年 7 月に起きた新潟・福島豪雨により、一部の橋梁と路盤が流出するなど被害を受け、現在も会津川口-只見間が不通となっている。過疎地であることに加え知名度も低いため利用者数は少なく、復旧の目処も立っていない。

そこで今回私たちは、東京大学・拓殖大学・大月短大の学生達との意見交換を踏まえつつ、奥会津地域の PR を通して只見線沿線エリアの活性化・只見線の乗客数増加を目指すことにした。

その際に、奥会津五町村活性化協議会の方々から「奥会津を PR するパンフレットやグッズの制作を依頼したい」とのお話をいただき、「会津短大生による奥会津 PR パンフレット・グッズのデザイン提案」を行うこととなった。

また、他大学との合宿を通じて、「奥会津でのオプションルツアープラン」という新たな PR を試みることにした。

そこで、会津大学発の IT ベンチャー企業であり旅行代理店業務もおこなっている株式会社シンクの方々と連携し、ツアープランを一から提案・リーフレットの制作を行うに至った。

【研究の目的】

今まで学んできたグラフィックデザインの知識を生かして、奥会津の魅力を県外の人々に PR することで観光客を誘致し、奥会津・只見線沿線エリアを盛り上げる。

それにより、只見線の利用者増加に繋げ、現在不通となっている区間の復旧に貢献する。

奥会津五町村活性化協議会と連携して制作

- 只見線沿線 PR パンフレット「おくあい」
制作者: 高橋ゼミ(各自取材・担当ページの編集)
- 都営地下鉄 BO ポスター・中吊り/法被
制作者: 澁谷朱里
- ノベルティグッズ(トートバッグ)
制作者: 東山夏実
- ノベルティグッズ(ペーパークラフト)
制作者: 笠井ルリ子

株式会社シンクと連携して制作

- 奥会津オプションルツアー提案・リーフレット制作
制作者: 瀬切未知佳・坂田れい実・松田涼花

【研究のプロセス】

月日	事項
2015	
7/1	電車広告 デザイン提案(コンペ形式)
7/21	電車広告 秋デザイン最終提案
8/5	プレ中間発表会
9/5~6	拓殖大・立教大・東京大・大月短大の学生と合同合宿
10/25	中間発表
11/11	電車広告 冬デザイン最終提案
12/上旬	奥会津地域に取材(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町)
12/24	奥会津パンフレット デザイン提案 ノベルティ デザイン最終提案 法被 デザイン最終提案
2016	
1/13	奥会津パンフレット 最終提案 電車広告 春デザイン最終提案
1月下旬	奥会津オプションツアー提案・リーフレット完成

【成果物】

●おくあい

奥会津に住む方々を直接取材し、お聞かせいただいた内容を中心に A5 サイズで 24P のパンフレットを制作した。10,000 部印刷し、県内外で配布予定。



●都営地下鉄 BO ポスター・中吊り

秋・冬・春の 3 回に分けて電車中吊り広告、及び駅構内に掲示する BO ポスターを制作し、都営地下鉄の車内（秋は千葉県・冬は埼玉県にも掲示）にて奥会津の魅力を発信する広告を行った。中吊り広告は 1,310 両に、BO ポスターは主要 10 駅に掲示した。



●法被

只見線の PR 活動の際に着用する法被の柄をデザインした。これは主に奥会津五町村活性化協議会のスタッフの方々が着用して県内外でのイベントで奥会津の魅力を発信していく予定。



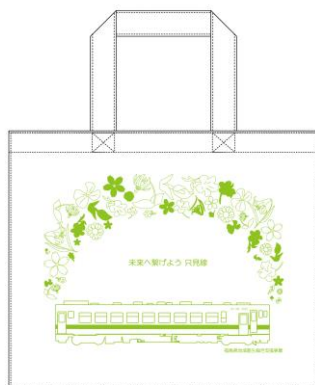
●ツアープラン

奥会津地域で行うオプションツアーの内容を提案し、株式会社シンク様との話し合いを踏まえつつ、A3二つ折りのツアーパンフレットを制作した。極端に灯りの少ない田舎だからこそ見る事ができる美しい星空を生かしたツアーや、廃校を利用した肝試しなど、今までスポットを当てられてこなかったものに着目して提案した。



●ノベルティグッズ(ペーパークラフト・トートバッグ)

奥会津を訪れた人々へ旅の思い出として配布するペーパークラフトとトートバッグを制作した。各 2,000 部印刷し、只見線の利用者に配布予定。



【考察】

今回の研究では只見線沿線エリアを中心とした取材・調査を行い、地域の方々の生の声を聞きながら奥会津の魅力を感じると共に、その魅力を県内外に発信する発想の手がかりを得ることができた。

特に「おくあい」は、既存の奥会津紹介パンフレットが各地域を客観的に満遍なく取り上げたものが多いのに対し、住んでいる人々に直接取材した内容をメインにすることで、今までにないパンフレットに仕上げた。

更に県外の大学生との合同合宿を通し、様々な観点からの提案を聞くことで、「オプションツアー」という成果物へと発展させることができた。

今回のこの研究が只見線沿線エリアをはじめ、奥会津全体の復興の一翼を担えればと考える。